

## 第2回里山広葉樹利活用推進会議概要

### 1 開催日時及び場所

日時：令和6年12月18日（水）14：00～17：40

場所：日林協会館3階大会議室

### 2 出席委員

第2回里山広葉樹利活用推進会議出席委員名簿のとおり

### 3 意見交換の概要

○第1回里山広葉樹利活用推進会議の振り返りに関する意見概要

森松委員：森林サイドから言うと、飛騨の天然更新を見たが、富山の広葉樹更新伐とは異なり、飛騨は天然更新に近い形をとっていた。富山では高めの下刈りをしているが、飛騨では自然の形で更新を図っている。隣の県なのにスタイルが違う。人工林のように保育が必要な広葉樹施業もあることを理解いただきたい。地域毎に様々なパターンの更新があるため、「全てがこのやり方でやれる」という認識になると困るだろう。

西野委員：日本各地いろいろな植生があり育つスピードも多様である。ササで言うと、富山県はチシマザサが繁茂すると考えられる。スライド15を見てみると、課題は川上側にあるのではと考える。また、スライド18の整理は重要だと考える。針葉樹とは異なり、広葉樹は多様なものを含んでいる。

鈴木委員：飛騨市の現地視察で驚いたのは、ナラ枯れ被害木を活用していたこと。地域によっては捨てているところがある。飛騨市では家具メーカー主体で集めて進めているが、広葉樹産業が如何に小さいかが分かる。

鈴木委員：広葉樹産業は経産省へ規模・売上げが計上されるため正確な規模が分からない。また、林野庁の統計では薪の生産量は正確ではなく、市場を真面目に調査したことはない。これらを調査すると、広葉樹が利用されている巨大な市場が現れるだろう。

青井委員：スライド9の飛騨市の広葉樹施業という言葉が出ているが、全国的には広葉樹施業がうまくいっている事例がほとんどない。たまたま上手くいっている事例しかないため、失敗した事例から学ぶ必要があるのではないかと。

廣瀬委員：広葉樹施業は赤字覚悟と言っているが、当社では広葉樹施業で利益を得ている。単樹種ではなく色々な樹種を多様に利用している。人員は増えるがグラップルや集材機を活用して進めており利益を上げている。特に、地域ごとの施業方法や萌芽更新状況は、地元の川上の事業者は知っているだろう。その知見を集めることが必要だ。

青井委員：ミズナラやコナラは、家具用やフローリング用で需要があり植栽されていたが、失敗することが多い。どの樹種であれば、その土地に合うのかが重要だろう。

西野委員：スライド9のシカの食害を考慮した上での天然更新が必要。一辺倒に天然更新や植樹というわけではないだろう。

#### ○事例紹介に関する意見交換

海堀委員：川上側と利用者の間にあるのは製材所だと思うが、広葉樹を挽ける製材所が本当に少ないことが課題だ。他の経営者と話していると、原木購入から乾燥までのリードタイムが長い。一定の時期に購入したものを1年以上かけて製材乾燥していく。これは資本力が重要になる。生き残っているのは資本力を持っている組織だろう。急に新規参入すると、そのあたりのノウハウを教えたくないのではないか。

廣瀬委員：現代社会は必要な物が満ち足り、道具としてのモノを買わなくなっているため、コト消費に移ってきているため、認証材というだけでお金を出す人は居らず、ストーリーが無いと役に立たない。大手家具メーカーはそうした努力をしているので輸入材やパーティクルボードであっても買われている。認証制度は大切だが、販売促進には出口戦略が必要である。

末吉委員：認証制度は非常に重要だが、消費者に届けるには背景や物語等の付加価値が必要だろう。製品に背景の物語を載せることは大事だ。今後はもっと消費者に向けた情報を充実させていく必要があるだろう。

都竹委員：コンシェルジュという名前でなくても、繋ぐ人がいればよいと考えている。元々チップになっていた材を原木利用するには、営業する人が必要になる。その人は材の状態が分かる必要がある。飛騨市では、地域おこし協力隊が卒業する際に広葉樹活用コンシェルジュと命名した。名前よりは役割として飛騨市に存在する。

#### ○とりまとめに向けた意見交換

長野委員：とりまとめのポイントは、実施の目的や効果、この取り組みを通じてやっていくこと等、経済価値以外の観点も含めて整理する必要がある。最も大事なものは森林に必要な手入れがされ続け、森林が維持されていくことだ。広葉樹施業の知見を収集・整理・共有していく必要があるだろう。実証がまだまだ不足していると感じる。国有林での知見共有とともに、国として実証プロジェクトを支援してほしい。広葉樹はコストを考えると自然に私たち人間が合わせていく必要がある、そのコンセプトが重要だ。目利き、製材、乾燥、コーディネーターが重要。この辺りの人材育成が必要だろう。複雑なものを観察しながら取り扱うことが広葉樹利用なのだろう。木材利用だけではなく、木工、薪、新素材な



ど多様なカスケード利用がある。幅広く取り込んでいく必要がある。林業界だけでクローズでやっていくものではない。

青井委員：実証事例の件で言えば、北海道と九州を除いた国有林で、カラマツの植栽を実施した。植栽の経験則が重要だった。広葉樹施業も管理局か管理署に失敗事例が記録としてあるのではないか。スライド 32 で、プラットフォームをやることでのデメリットは、サイトでの情報発信は 5～6 年やらないと根付かないこと。根付くには時間とお金がかかる、普及に時間がかかるので、加速させる方法が必要だと考える。

末吉委員：プラットフォーム設置は賛成である。広葉樹の利活用の目的や vision をはっきり示す必要があるだろう。地域や日本が最終的にどのような姿になっていくことを目的としているのかが、どんな人にもわかりやすく見えることが大事。プラットフォームを通じた消費者とのコミュニケーションや広葉樹製品と消費者との接点も求められると思う。

都竹委員：川上の事情も出口の事情も地域で違い、必要なエッセンスが違う。線を結ぶ必要がある。需要の創出も地域によって違う。繋げることが重要である。全国で需要のあるところとのマッチングも重要だろう。取り組んでいるところの共通の課題を取りまとめることも良いだろう。

鈴木委員：過去は、広葉樹は家具用材であった、今はチップが主流。これは昔からチップ利用が主流であったわけではなく元は木材利用だ。広葉樹の樹種ごとに必要な事業者が違う。エリアごとの小さくやるのではなく広域に価値を見出せるものが必要だ。その仕組みが必要だろう。コンソーシアムも重要だが、業界団体を組織する必要があるだろう。長野県では、木工やクラフト作家の名簿を作ると聞く。名簿作成は、木材利用に関わる事業者のことが把握できていないことが要因だ。様々な要望がマッチングできることが重要だろう。

西野委員：需要より供給が重要、スペシャリストの育成が必要。参考となる広葉樹の値段表があった方が良いだろう。工業や水産業など他の第一次産業のプラットフォームがあるのかというところが気になる。あれば参考になるのではないかと考える。また、都市と地方を結ぶことが重要。実装が重要だ。広葉樹利活用事例会をやってみるなども良いだろう。

廣瀬委員：広葉樹の賦存量が把握された数値や活用の目標があるのか判らない。そうした数値を把握し持続可能な利用量と、有効な活用方法を検討することが必要だ。

盛委員：北海道では活用ではなく、「広葉樹資源を育てよう」という段階。広葉樹は 90 年を伐期として進めている。太い木の木取ができるオペレーターがいない現状が危惧される。機械化ではなく人材育成が必要だ。

森松委員：広葉樹施業の実証を進めることが重要だろう。薪炭林の経験も広葉樹施業も知見がない。山側に情報が入っていない。中間の役割を担うプレーヤーが重要だ。

土屋委員：森林施業の研究が足りていないことは考えないといけない。広葉樹施業を進めていくためには、国の指導が必要だと考える。コンソーシアムは賛成だが、今回の意見を考慮すると、地域での差があるため、一緒くたにするのも違うだろう。川上から川下までの情報を共有する場が必要だろう。

(以上)

第2回里山広葉樹利活用推進会議出席委員名簿

| 氏名 |       | 所属                                             |
|----|-------|------------------------------------------------|
| 委員 | 青井 秀樹 | 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所<br>林業経営・政策研究領域 チーム長 |
|    | 海堀 哲也 | 朝日ウッドテック 株式会社 代表取締役社長                          |
|    | 末吉 里花 | 一般社団法人 エシカル協会 代表理事                             |
|    | 鈴木 信哉 | ノースジャパン素材流通協同組合 理事長                            |
|    | 土屋 俊幸 | 公益財団法人 日本自然保護協会 理事長（東京農工大学 名誉教授）               |
|    | 都竹 淳也 | 飛騨市長                                           |
|    | 長野 麻子 | 株式会社 モリアゲ 代表                                   |
|    | 西野 文貴 | 株式会社 グリーンエルム 代表取締役社長                           |
|    | 廣瀬 直之 | 東京燃料林産 株式会社 代表取締役                              |
|    | 盛 孝雄  | ひだか南森林組合 組合長付専務                                |
|    | 森松 亮  | 富山県西部森林組合 代表理事組合長                              |

(50 音順、敬称略)